第11回 絵双六に魅せられて

少年未来旅行双六

1918（大正7）年

私は、子どもの想像力を掻き立てる大正時代のSF双六が大好きです。「火星國探検競争双六」「天空探検飛行双六」など、タイトルだけでもわくわくします。これらの双六が「SFの父」ジュール・ヴェルヌ[*1]の影響を受けたことはいうまでもありません。彼の科学技術の進歩に対する洞察力あふれる文明批評を読むと、これが一九世紀に書かれたものかと驚かされます。

「未来少年旅行双六」をご覧ください。磁力車、空中電車、海底汽車、水上自転車、空中船、バネ登山、月ロケットなどユニークなアイデアが満載です。考案者である有本芳水は、少年詩や冒険活劇小説を書く一方、雑誌「日本少年」の主筆として、同誌を三五万部も売るほどのらつ腕をふるいました。

日本画壇の第一人者であった川端龍子は、じつは多くの絵双六も手掛けています。コマ割りをしないで、立体感のあるスペクタクルとして仕上げているのがいかにも龍子らしいところです。一〇〇年後を夢想しながら少年のような心で描いたのでしょうか。

この双六が作られた年は、児童雑誌「赤い鳥」が創刊され、富山県で米騒動が起こり、原敬内閣がシベリア出兵を行いました。第一次世界大戦が終結したのもこの年です。

振り出しと上がり
3人の少年が握手をして未来旅行に出発しようとしています。上がりは少年が空駆ける白い天馬に乗っています。

現在ではすべて実現？
磁力車はリニアモーター、バネ登山はサイバースーツ[*2]と考えれば、100年前に想像された乗り物はすべて実現されたといっていいでしょう。

案：有本芳水
画：川端龍子
発行：実業之日本社
発行兼編集人：増田義一
印刷人：有本歓之助（芳水）
サイズ：縦55cm×横78cm
雑誌「日本少年」正月号の付録。

文・監修 吉田 修

よしだ・おさむ●1954年生まれ。島根県松江市出身。全国求人情報協会常務理事、NPOキャリア権推進ネットワーク広報部長、和文化教育学会会員を務めるかたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。
公式HP＝http://www.sugoroku.net

所蔵＝吉田 修　写真＝鎌崎 勲

＊1　フランスの小説家（1828-1905年）。「八十日間世界一周」、「月世界旅行」、「海底二万里」など作品多数。
ヴェルヌの著作の日本への紹介は明治11年以降多数行われた。「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」は彼の名言とされている。
＊2　電動アクチュエーターや人工筋肉などの動力を用いた衣服型の装置。パワーアシストスーツとも。

2018

7 JULY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16 海の日	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				